

# 代表者会議【当日資料2－2】

## 茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

件 名	令和6年度第4回くらしの基盤強化部会
日 時	令和7年2月14日（金）10時～12時
場 所	茅ヶ崎市社会福祉協議会 2階B会議室
事 務 局	茅ヶ崎市社会福祉協議会 障害者生活支援センター
出 席 者	<p>■太田 英次郎（茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p>■鈴木 大雅（当事者）</p> <p>□小野田 潤（茅ヶ崎・寒川居宅介護事業所連絡会）</p> <p>■加藤 郁子（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>■高田 陽子（茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会）</p> <p>■牧野 浩子（茅ヶ崎市肢体不自由児者父母の会）</p> <p>■瀧井 正子（茅ヶ崎手をつなぐ育成会）</p> <p>■長谷川 栄子（地域包括支援センター）</p> <p>■市村 碧（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>□瀬川 直人（オブザーバー：基幹相談支援センターナル）</p> <p>■鈴木 敦之（オブザーバー：茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■田中 有希子（事務局：障害者生活支援センター）</p> <p>■江崎 友也（事務局：障害者生活支援センター）</p> <p>■和田 由美子（事務局：障害者生活支援センター）</p> <p style="text-align: right;">■出席 □欠席</p>
議 題	<p>1. 協議報告書兼事例集の作成について／今後の取り組みについて</p> <p>2. その他（情報提供など）</p>
検 討 内 容	<p>太田部会長の司会により議事は進行された。</p> <p>1. 協議報告書兼事例集について意見交換／今後の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足やセルフプラン率が高いこと等も含め、市障害者保健福祉計画に具体的な取り組みを盛り込む必要がある。協議報告書兼事例集は多くの当事者や支援者の手に渡り活用されることを願う。</li> <li>・当事者としては、支援者の専門性よりも横の繋がりの方が心強い。意思決定支援は当事者だけでなく、家族も巻き込んで行う必要がある。</li> <li>・“障がい”というと身体障がいのイメージが強く、知的障がいや精神障がいへの理解が難しい。単身の障がい者が多く、自治体にも加入していないため生活状況も把握できず、支援方法が分からない。</li> <li>・これまでも現場の状況は発信し続けているが打開されておらず、事業所の閉鎖や相談員の退職も続いている。相談機能のところで、相談員を増員し身近に相談できるようにするというワードを入れられれば。地域包括支援センターくらいの規模で相談員が増えるとよい。</li> <li>・地域の世帯として見る視点が必要で、世帯を洗い出し、備えのためのシュミレーションや具体的なケース検討ができる機会が必要。現状では相談員がキャパオーバーであることを把握してもらう機会もあったら良い。</li> </ul>

- ・体験利用と緊急入所が同時にできる施設があると良い。
  - ・相談員アウトリーチ事業は相談員だけではできないので、多職種の協力が必要と追記した方が良いのではないかな。
  - ・人材確保は相談員だけでなく、通所先やヘルパー等も含めた人材育成が必要。
  - ・安心生活プロジェクトは書類が情報不足で受理されないケースがあり、もう少しハードルを下げてほしい。そのようなケースは情報が得にくいことが大半なので、僅かな情報でも登録して把握できるようにしてほしい。
  - ・緊急対応が必要な際に備えて、短期入所の空き情報等や県内入所施設の空き情報が一覧で分かると良い。今までケースワーカーが施設の空き情報を探し、相談員が生活支援を回しながらやってきたが、人海戦術で空いている施設を探すには限界がある。グループホームの空き状況がリアルタイムに更新されるようなツールがあるとよい。
  - ・素晴らしい提言と事例集だと思う。1つでも多く実現してほしい。
  - ・18歳になると今まで無料だったサービスに親の自己負担が発生し、利用に抵抗感が生まれやすい印象がある。20歳になると本人負担に切り替わり実質無料に戻るケースもあり、そうした制度に関するお知らせがあっても良いのでは。年金の受給手続きも始まる。児童から成人への移行期にフォローアップの強化が必要。
  - ・福祉人材の不足について、学生には地域福祉が人気で、介護には抵抗感があるように。福祉＝暗いイメージにならないように、「あったら良いよね」で終わらないように、具体的な提言を盛り込めると良いかな。
  - ・多機関が連携した成功例の中にも課題がある可能性あり、市としての動き方を提言としてまとめられれば良いかな。専門職の横の繋がりを強化するためには、相談員数の数値目標も設定した方が良いかな。
  - ・専門職だけでなく地域住民も、誰かが頑張るのではなく、近所で気にかけてあうことで住みやすい街づくりに繋がる。
  - ・情報を拾っても、どうしたら良いのか分からない民生委員も多い。どうやったら助けに繋がるか、具体的な方法の記載があっても良いのではないかな。
  - ・親の会としても同様の提言をしているが、状況は変わらない。当事者団体としては、根強く提言を続けていくことしかないと思う。
  - ・今回の意見やアイデアを更に盛り込んで、来年度の部会で最終決定するのが良いかな。次回までに「親亡き後」に代わるフレーズも検討してきてほしい。
  - ・肢体不自由児者父母の会で借りている施設の和室でのオムツ交換が、衛生面を理由に突如禁止となった。代替案の提示もない。合理的配慮に欠けているのではないかな。
- 差別協議会で取り扱うべき事案の可能性はある。代替案を提示するか、折り合いをつける話し合いを設けるべきで、一方的な対応は合理的配慮に欠ける対応とみなされる可能性がある。持ち帰り対応を検討したい。

以上

## 代表者会議【当日資料２－２】

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 次第</li><li>・ 暮らしの基盤強化部会 協議報告書兼「親亡き後問題・障がい版 8050 問題」関連事例集</li></ul>
課題・懸案事項	「部会協議報告書・親亡き後関連事例集」の作成について
代表者会議への 検討課題	